

「あれ、この石柱は何ですか。」郷土史館前館長で郷土史家の先生に尋ねると、「これは『なかたち石』と言い、向かって左の側面に“たずねるひと”、右の側面には“こたえるひと”と文字が彫っており、これはまさに情報ツールの原点である。尋ね人あり、求人あり、宣伝広告あり、などの伝言版的利用をするものである。」と解説をいただいた。今でいうインターネット掲示板であろう。私自身まったく知らない物の発見であり、今も山形市小姓町に立つことに感銘を受け、地図に掲載することをその場で決めた。

これは、我が城下町やまがた探険隊の十数回重ねたエクスカージョン（街歩き）のひとコマである。

城下町やまがた探険隊とは、「江戸・明治・大正……歴史の交差する街 城下町やまがた」をテーマに、山形の中心市街地の魅力を発見し、誰もが訪れたい街・誰もが住みたい街＝山形を実現するために活動している市民グループである。そして、地図とは探険隊が活動の一環として作成している「城下町やまがた探険地図」のことである。

山形は扇状地、盆地を利用した城下町で、大きな戦災を受けなかったおかげで明治・大正・昭和の佇まいや街道が現存するまちである。街角の蔵や鉤の手に曲がる道、時が止まったような寺社の境内と街並み、その合間から見える山並み。春、里に桜が咲き、周辺のは新緑に変わり遠方の山並みは残雪、そして目に染みるような青空……このようなコントラストの自慢できる風景がこの山形にはある。

そのような山形の市街地を、実際に探訪・回遊・

散策し、楽しみながら歩く人々の少し役に立つための地図を目指してワークショップを重ねている。

この城下町やまがた探険地図づくりのきっかけは、山形市観光協会の観光を考える会において、山形市街地に多くの人が訪れていただくためにはどうしたら良いのかという議論があった。その中で「本当に訪れる方々のことを考えた案内地図が無い」とのご指摘から始まった。県の中心市街地活性化のアクショングループにおいても、同様の意見が多かった。ただし、行政で案内地図をつくると民間の店舗が出

VALUE SIGHT

観光客と地元住民の 山形の中心市街地の 詰め込んだこだわり

街角の蔵、鉤の手に曲がる道、そうした都市の歴史の重なりが観光対象として見直されている。街中観光の具体化に取り組んでいる城下町やまがた探険隊が作成した「城下町やまがた探険地図」には史跡から蔵、ギャラリー、甘味処、そば屋まで情報が満載である。利用者次第でいろいろな可能性を持つ地図である。



城下町やまがた探険地図

にくく、観光協会の作成では会員店舗しか出ない。だったら民間で作成すれば良い、と思うが、掲載料をあてにしないとつけれない。本当のニーズを反映した地図が必要であることから、受け皿として街づくりを目的に立ち上げた、特定非営利活動法人(NPO法人) CANに白羽の矢が立った。

訪れる人々はもちろん、地元の人々や子供たちにも地元を知ってもらい、少しでも自信を持ち、自慢できる事があればと思う。また、残っているものと再生したものは違う。残っているものの魅力を発見



エクスカーション（街歩き）の様子

などなど、バラエティーに富んだ探険隊ならではの企画を実施してきた。毎回様々な新しい発見がありこれからも楽しみである。夜の探険地図は、いろいろと問題を抱えつつ探険中版（現在進行形の意味）として発行し、各宿泊施設などにおいては大好評と聞いている。

「街中観光」という言葉があるが、人口が減っていく時代となった今、ビジネス、学校などで来街する人も含め交流人口を対象にしていけないと、商いも中心市街地の活性化も厳しいと思っている。外に向かって城下町やまがたの良さを伝えるためにも、まずは自分たちのふるさとを知ることが大事である。

「城下町やまがた探険地図」という“しかけ”によって、地元の市街地におけるこのような楽しみを多くの方々に味わっていただき、城下町やまがたが観光としてはもちろんのこと、訪れる人々がまた来たくなり、地元の人との交流の輪が広がり、元気な賑やかさがうまれることを願う。

「井の中の蛙大海を知らず…… しかしその天空の深さを知る……」この言葉を知り、この城下町やまがたの天空の深さ（良さ）を探し、伝えていきたいものである。

ために 魅力を の地図

村山

城下町やまがた探険隊
隊長

新関 芳則



し、その保全につながる活動ができればとの私の思いも含めて城下町やまがた探険隊の名称でスタートをしている。

平成16年度はエクスカーションを繰り返し、市街地のスポットの掘り起こしやガイドマップのデータ作成を行った。平成17年度にはWeb版を先に立ち上げ、その後にプリント版を発行している。今年度はこれまでにテーマを決めたエクスカーションを実施したほか、さらに夜の探険地図作成にチャレンジしている。

エクスカーションのテーマは「老舗料亭とのお庭拝見」、「昭和33年の伴淳三郎の映画の現存する山形ロケ地探訪」、「山形のお菓子食べ比べ」、「元千歳公園界隈から鯛焼きを食べながら藤沢周平の通った道」、「夕暮れの紅葉狩と名物鍋料理はしごツアー」

■ 新関 芳則（にいぜき・よしのり）

1953年、山形市生まれ。
株式会社丸八やたら漬・有限会社丸八新関 代表取締役。
日本一の芋煮会フェスティバル 実行委員長。
財団法人山形市観光協会 理事。
山形県中心市街地活性化事業 アクショングループ
街中観光担当。
特定非営利法人CAN 理事長。
城下町やまがた探険隊 隊長。
ホームページ：
<http://www.kankou.yamagata.yamagata.jp/tankentai/>